

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500046		
法人名	株式会社 やさか		
事業所名	グループホーム あんき		
所在地	岐阜県中津川市坂下931-1		
自己評価作成日	平成23年1月10日	評価結果市町村受理日	平成23年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191500046&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根差し、開かれたグループホームを目指している。 ・ご利用者の想いや気持ちを大切に、自主性を引き出せるような関わりと支援に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>県境に近く、事業所の南に面した中央からは、恵那山が迫って見えている。利用者は終日、自然の景色を眺めながら、ゆったりと笑顔で暮らしている。職員は、比較的若い人達で構成されているが、連帯感を高めながら高齢者の想いや気持ちを大切に、自主性を引き出す支援をしている。その成果は、穏かな笑顔や身体機能の向上に現れ、職員の努力に、家族からも感謝と高い評価を受けている。管理者・職員は、その人らしい暮らしを支えるために、常に技量の向上・成長を目指し、豊かな発想と熱意を持って取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input checked="" type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input checked="" type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有に関して、日々のケアの中で常に検討する事を目標としている。職員会議を通して、理念の共有化を図る取り組みをしていく。理念に基づいての支援は、日々申し送り等で確認し合っている。	地域に根差し、必要とされる事業所を目指し、その人らしい暮らしを、その人が主体となるケアを理念に掲げている。理念は、職員会議で共有を図り、利用者本位の、ゆっくりと自由な生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加を行い、事業所での行事などにも地域の方が参加出来るよう声を掛けながら交流に努めている。	自治会に加入し、公共の場の清掃活動や地域行事には、常に参加している。地主や近隣の高齢者が、頻りに訪れ、野菜の差し入れや畑の手入れを行ったり、ボランティア等の来訪も多く、地域とは日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方達の受け入れは何時でも可能であるが、認知症の方への理解、支援の方法を活かすにはまた改善点がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回会議で改善点などを指摘して頂き、可能な限り活かせるよう努力している。また、改善した点等に関しては、必ず報告を行っている。	会議は2ヶ月ごとに開催し、行政・自治会長・老人会長・民生委員・地域住民代表・家族等が参加している。会議では、事業所の分かりやすい看板、緊急用のサイレンや赤色灯の設置等の提案があり、実現している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修事業などへの参加や協力を仰ぎ、様々な意見交換を行っている。地域包括支援センターとの関わりからハイリスク者の把握などの取り組みが不十分であると感じる。	市の主催するケアマネジャー会議やグループホーム協会支部の定例会議で、意見や情報を交換している。困難を抱えている利用者・家族の対応についても相談している。また、市の介護相談員を隔月に受け入れ、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新任研修時より、身体拘束をしないケアについて話しており、日々それに沿ったケアを心掛けている。	職員研修で、身体拘束をしないケアについて学び、実践している。玄関の鍵は開放し、職員の見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護の外部研修などを行い、虐待防止の担い手として注意を払うよう努めている。		

岐阜県 グループホームあんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加で学ぶ機会を設けているが、個々の必要性を関係者と話し、活用出来る支援としては出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者やご家族に不明点などを伺い、納得できるよう十分に時間を取って説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の要望などは日常的にくみ取れるよう留意している。ご家族には面会時、運営推進会議等で要望など伺えるよう努めている。	家族の訪問時や運営推進会議に出席した家族から、直接意見を聞いている。事業所負担の大きい、過剰なサービスの要望等も出されていることから、出来ることを優先し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会を開き、そこで聞ける場を作っている。代表には管理者より報告をし、介護責任者と共に職員の意見を検討し、運営に反映している。	管理者は、月例会議の中で、職員の意見を聞いている。食事内容を充実する提案や、仕事の負担軽減の意見等が話し合われ、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績・勤務状況は管理者より代表が報告を受けている。勤務・職場環境に関する相談も、代表・管理者が受け付けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3か月に一度の外部研修やその都度研修がある場合には参加を促している。また、内部研修も出来る限り開催できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員数が少ない為、全員という事は難しいが、一部は外部の勉強会に参加したり、部会での交流作りを出来るように計画を立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の想いを大切に、日々要望、不安などを聞けるよう、話を聴ける環境作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者同様、ご家族の想いを聞きとれるよう、こちらから不安等を伺う時もある。相談などがある場合には、落ち着いて話の出来る部屋で話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、利用開始時にはご本人の状態を含め、支援出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理やそれぞれ得意な分野をお持ちの方にいろいろ教わりながら、一緒に生活する空間作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者とご家族の橋渡しが出来るよう、行事などには声を掛け、ご家族が出来ない部分はこちらで支援出来るよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会・馴染みの場所への外出を、ご本人の要望などがあれば出来る限り支援している。	知人・友人の訪問があり、関係が途切れないように、雰囲気作りに努め、ホーム行事にも招待している。馴染みの自宅や周辺の公園、商店等へは、家族と協力し、継続して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性を把握できるよう留意し、日々関わりを持てるような環境を整え、支え合えるような関係性が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話相談などがあれば、その都度伺っている。こちらから働き掛ける事はほぼないので改善が必要である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向や希望を把握できるよう努めているが、出来ていない部分もある。出来る限り、ご本人本位の生活が出来るよう心掛けている。	日々の会話の中で、意向や希望を把握している。意思疎通の困難な人には、表情や行動から汲み取っている。また、家族からもそれとなく確認し、その人らしい暮らしに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントでの把握、また日常会話での聞き取りなどで把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り等で、状態等の把握に努めている。また、出来る事の把握はまだ全員ではない為、場面場面で把握できるよう努めたい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人を含めた家族との話し合いは不十分である。しかし日頃より、ご利用者の希望等は聞けるよう努めている。またモニタリングや申し送りで伝達する事も行っている。	本人・家族とは日頃の関わりの中で、希望を聞いている。本人・家族の要望や変化が生じた場合は、関係者によるモニタリングを行い、現状に即した介護計画になるよう見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録としてはまだ改善点があり、ケアプランへの反映も十分でない。日々のケアにおいては、日誌、申し送りなど職員間で共有できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多機能化という点では具体的には無いが、様々なニーズに柔軟に対応できるようにしている。		

岐阜県 グループホームあんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は徐々にであるが出来ている。個々の心身の力を発揮という点では、まだ支援出来ることがあるのではないかと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの家族が、定期受診をかかりつけ医に受診されているが、本人及び家族の希望等により受診介助も行っている。	多くの家族が、入居前のかかりつけ医を継続している。通院受診は、家族の役割りとなっているが、家族の都合によっては、事業所がその役割りを担っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護師に状態の報告、情報交換等を行い、個々の状態把握、異常発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供、退院時にはカンファレンスを行うなど必要な事は行っている。坂下病院の訪問看護師との関係作りを務めて行う事で、病院との関係を深めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現段階では、本人及び家族の指針は伺っているが、事業所としての位置づけがはっきりと決まっていない。が出来る限り本人及び家族の意向に沿えるよう早めの話し合いが必要である。	重度化・終末期の対応方針は、常時医療行為が必要な段階を限度としている。協力医院と訪問看護の連携により、1例の経験もあり、家族の希望により自然の看取りには応じる体制である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、急変時の対応については全職員に訓練を定期的には行っていない。今後の課題の一つとして位置付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を重ねて行い、身に付けれるよう努めている。地域住民の方には、訓練時には参加頂けるよう事前の連絡などを行っている。	年に2回、消防署の指導を受けて、避難訓練を行っている。連絡網の中に地域の人々が加わり、協力体制を築いている。非常時には、近隣の人々から応援が得られるようにサイレンと赤色ランプを設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重・プライバシーの保護には十分配慮している。排泄介助、入浴介助時には、タオルを掛ける・部屋への訪室時はノックを行う・声掛けなどへの配慮を行っている。	個々の生活歴や人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを行っている。部屋に入る時は、必ず本人の許可を得てから入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望等の表出に関しては、全員へその為の環境を整える事は出来ていない。自己決定出来る様な環境、会話には務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活に関しては、常に考えながらしえんさせて頂いている。全てのご利用者が、希望通りにト言う事に関しては、出来ていない部分もあるが、可能な限り務めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択・化粧などご自分で出来る事はご自分で行って頂いている。出来ない方に対しても、そと声を掛けさせて頂き、支援させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、ご利用者と共に調理など行っている。毎日好きな物を！というわけにはいかないが、希望は聴きながら作れるよう配慮している。	利用者と一緒に、食事の準備や後片付け、調理なども行っている。職員も同じメニューを食べ、昔の食事風景や食糧事情などを話題にしながら楽しい雰囲気作りをしている。特に、地元の名物「醤油味の五平餅」は、皆でつくるのを楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・栄養バランスには日々留意している。また、個々の習慣や状態などの把握にも努めている。水分量に関しては、不十分な所もある為、改善の余地がある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは十分出来ていない。就寝前・起床時には、個々に声を掛けながら行って頂けるようにしているが、不十分な所はあると思われる。		

岐阜県 グループホームあんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努めているが、不十分な点もある。排泄の自立に向けた支援としてはご本人の尊厳を大切にしつつ、留意しながら行っているが、失敗への支援という点では不十分な点もある。	個々の排泄パターンを把握し、自立に向けて支援している。意思表示の困難な利用者には、トイレ誘導を促しているが、失敗のケースも見られる。	職員は排泄パターンに応じた支援に努力しているが、排泄の失敗もあるので、その原因を探り、失敗を減らす排泄支援に期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の影響などには留意している。飲食物の工夫、またはヨーグルや水分等の提供も心掛けている。便秘気味の方には特に注意を払うよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り、個々の希望に応じた入浴を心掛けている。入浴を拒まれる方に対しても、入って頂けるような気持ちになって頂けるような環境、ことばがけに留意している。	個々の希望に応じて、毎日入浴できるようになっている。気の進まない人には、相性のよい職員に変えたり、タイミングや言葉のかけ方を工夫している。木材を使った温泉風の浴槽でゆったり入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間、起床時間の細かな設定は行っていない。出来る限り、ご自身の習慣に合わせられるような支援を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用などについての把握は不十分な所がある。服薬の支援については、こちらで管理し、服薬時に手渡し服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割には偏りがあるが、ご自身で習慣を意識されている方もいる。楽しみごと、気分転換等は出来る限り行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて、自宅などへ出掛けたり、買い物、外食など行えるようにしている。ご家族の協力も得られている。毎日その希望に添える事は難しいが、可能な限り、ご本人の希望を叶えられる環境作りに努めている。	日常的にホームの周辺を散歩し、新鮮な外気に触れている。また、買い物や外食、喫茶店へも定期的に出かけている。普段行けない季節の祭事や花見などの名所へは、家族と協力しながら支援している。	

岐阜県 グループホームあんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方は自己にて管理されている。また、ご自身で管理できない方に対しても、希望時には何時でも出して使える様な環境作りを努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい方には、いつでも電話出来るようにしている。その為希望の多い方には、ご家族にも協力を頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感・季節感に関しては、花等を飾ってはいるが、まだ不十分である。不快や混乱を招かない様な刺激を無くすように心掛けているが、不十分な所もある。	高い天井と太い木の柱が、癒しのある落ち着いた空間になっている。居間にある車椅子用のコタツやソファで、テレビを見ながらゆったりと居心地良く過ごしている。職員と共作の貼り絵や、写真を飾り、生活感のある空間づくりをしている。	トイレの場所が簡単な模造紙の貼り紙で表示されており、ホーム全体のデザインや雰囲気と比べて違和感があるため、周囲と調和した表示を工夫されたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では1人になれる空間は無い為、ご自身で部屋に行かれたりされている。また、リビングでは、気の合う方同士が席に座り話をされる姿も見られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り、ご自身が利用されていたものを部屋に置いて頂き、自由に利用して頂いているが、中には部屋に飾る物などが無い為、質素でさみしい作りとなっている方も居る。今後、ご本人、ご家族とも相談しながら、整えて行く必要がある。	居室には、馴染みの家具、テレビ・仏壇・位牌、家族や敬老会の記念写真などがある。他にも手づくり作品や日めくりカレンダー、植木鉢などが飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、わかることを意識して、環境を整えているが、全ての方に対して出来ているかは解らない。ただ、出来る限り、ご自身で出来るように努めている。		